

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 6 巻第 5 号

第 5 週 (1 月 30 日 ~ 2 月 5 日)

発行年月日:平成18年(2006年) 2月13日

発行 行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

今週の感染症発生動向

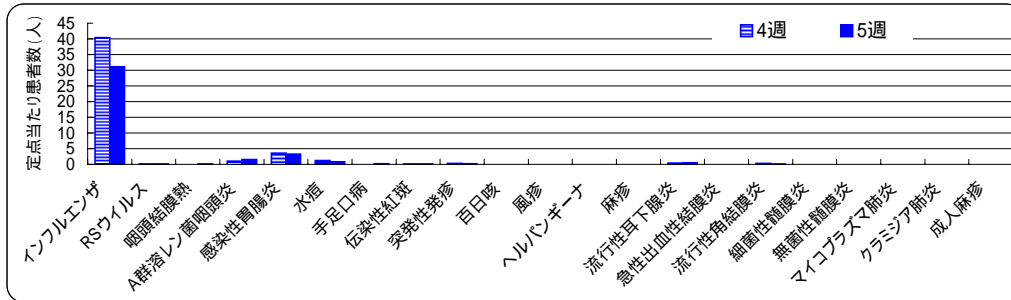
**インフルエンザの発生は、昨年の第46週以降11週ぶりに減少
先週に引き続きインフルエンザ流行発生警報および
インフルエンザ流行発生注意報の発生
滋賀県における全数報告感染症の概要(平成18年第1週~第5週)**

定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、先週(1月23日~1月29日)の報告数より少なくなっています。今週、増加した疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、流行性耳下腺炎等で、減少した疾患はインフルエンザ、水痘、突発性発しん等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

また、インフルエンザについては、昨年の第46週から連続して増加していましたが、今週は11週ぶりに減少しました。しかし、大津、水口、彦根および今津保健所管内において「感染症発生動向調査にもとづく感染症の警報・注意報システム」による**流行発生警報**が出されており、草津、八日市および長浜保健所管内では**流行発生注意報**が出されています。

今週は、全数把握対象である五類感染症の後天性免疫不全症候群1名の届出がありました。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象五類感染症、第5週、定点当たり患者数)

発生順位	疾患名	県	大津保健所	草津保健所	水口保健所	八日市保健所	彦根保健所	長浜保健所	今津保健所
1	インフルエンザ	31.16	48.33	20.00	35.86	26.00	39.43	17.86	31.33
2	感染性胃腸炎	3.31	4.43	7.33	2.50	1.80	1.25	0.75	2.00
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.53	0.14	1.00	3.25	1.60	1.50	2.75	2.00
4	水痘	0.81	0.86	1.00	1.25	0.20	1.25	0.50	0.50
5	流行性耳下腺炎	0.56	1.14	0.50	0	0.60	0.25	0	1.50

県全体における上位疾患の発生状況は表に示すとおりで、先週とほぼ同じです。各保健所管内ともインフルエンザの発生はやや減少していますが、他の感染症よりかなり多い状態となっています。

滋賀県における全数報告感染症の概要(平成18年第1~5週)

感染症類型	疾患名	報告年月日	概 要		
			菌種、血清型等	推定感染地域 推定感染源(原因)・感染経路等	
二類感染症	報告なし				
二類感染症	細菌性赤痢	H18.1.10 ^(*)	菌種:ソネ	インド 経口感染 乳製品、生野菜	
三類感染症	報告なし				
四類感染症	報告なし				
五類感染症	アメーバ赤痢	H18.1.6		日本国内 異性間性的接触 経口感染	
		H18.1.24		不明	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	H18.1.6		日本国内	不明
		H18.1.25		日本国内	不明
	後天性免疫不全症候群	H18.1.18	AIDS	カンボジア	異性間性的接触 その他
H18.2.2		AIDS	不明	不明	
急性脳炎	H18.1.18		日本国内	飛沫感染	

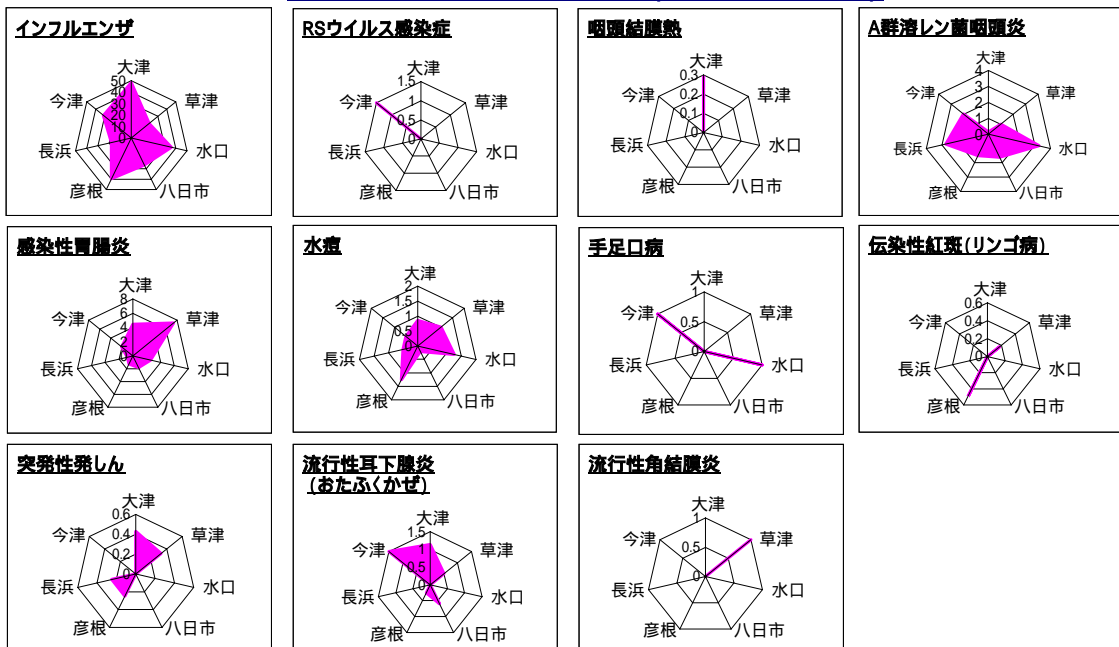
(*)検査法第26条の3に基づく(検査所長から滋賀県知事への通知による)

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第5週、1/30~2/5)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	31.16	48.33	20.00	35.86	26.00	39.43	17.86	31.33	
RSウイルス感染症	0.09	0	0	0	0	0	0	1.50	
咽頭結膜熱	0.06	0.29	0	0	0	0	0	0	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.53	0.14	1.00	3.25	1.60	1.50	2.75	2.00	
感染性胃腸炎	3.31	4.43	7.33	2.50	1.80	1.25	0.75	2.00	
水痘	0.81	0.86	1.00	1.25	0.20	1.25	0.50	0.50	
手足口病	0.19	0	0	1.00	0	0	0	1.00	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.09	0	0.17	0	0	0.50	0	0	
突発性発しん	0.22	0.43	0.33	0	0	0.25	0.25	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.56	1.14	0.50	0	0.60	0.25	0	1.50	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.14	0	1.00	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	

0 5 10 15 20 25 30 35
定点当たり患者数(人)

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。インフルエンザは各保健所管内とも先週より減少していますが、まだ多い状態が続いているので今後も注意が必要です。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は先週と同様に水口および長浜で多くなっています。また、感染性胃腸炎は草津で、流行性耳下腺炎は大津および今津でやや多くなっています。

<<感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム>>

戻る

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに警報レベルおよび注意報レベルの基準値を設定しています。その基準値を超えた時に流行発生警報あるいは流行発生注意報という表現により流行状況の指標として示しているもので、都道府県として発令される「警報」、「注意報」とは異なります。

流行発生警報

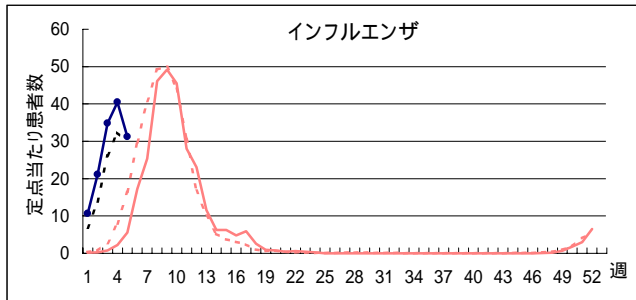
インフルエンザの場合、定点当たり患者数が30人以上という基準値を超えた時に出されます。流行発生警報という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

流行発生注意報

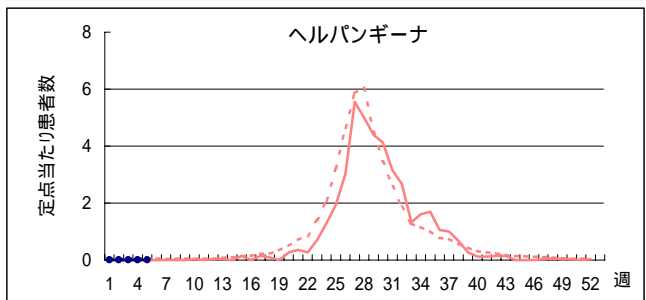
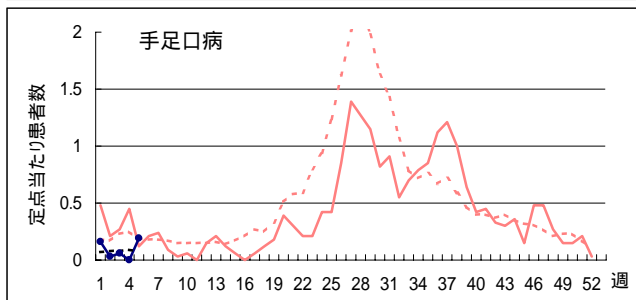
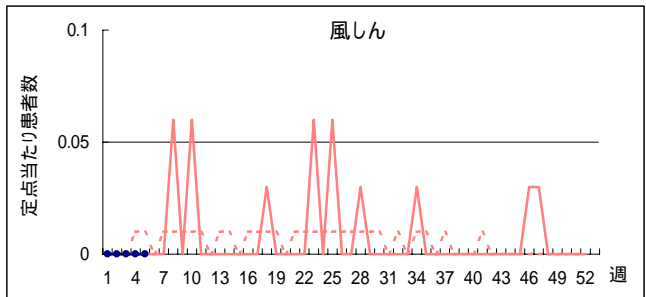
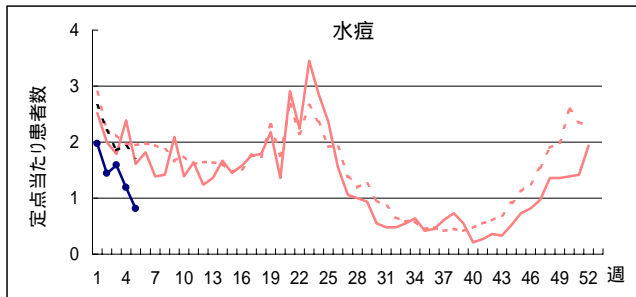
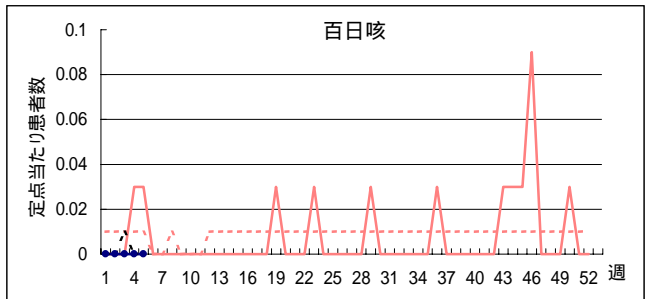
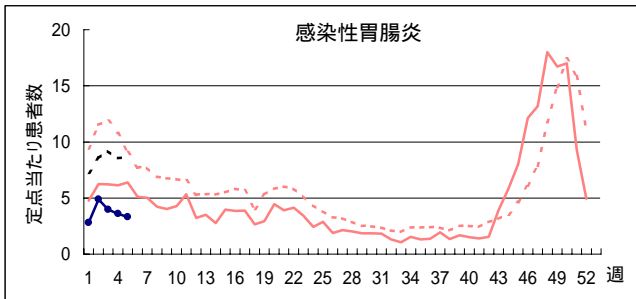
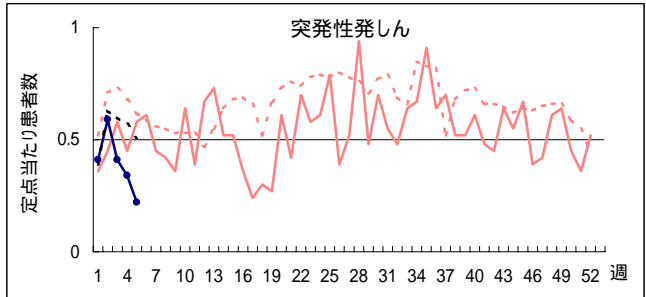
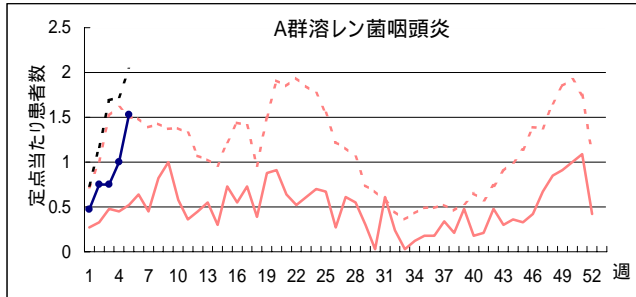
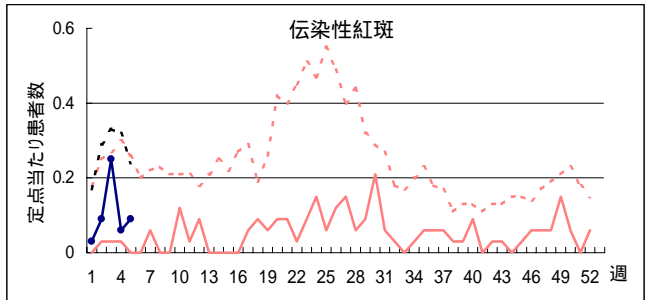
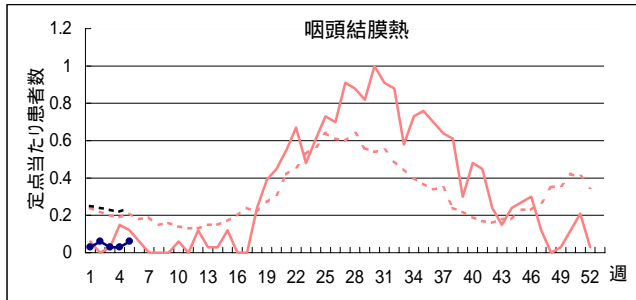
インフルエンザの場合、定点当たり患者数が10人以上という基準値を超えた時に出されます。流行発生注意報という表現により今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性がある、または現在も流行が継続している可能性があるという情報を提供しています。

* 詳細については警報・注意報発生システムとは(国立感染症研究所感染症情報センター)参照
<http://idsc.nih.gov.jp/disease/influenza/inf-keiho/guide05.html>

疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第5週、H18.1.2～H18.2.5)



H17 { 滋賀 ————
 全国 ······
 H18 { 滋賀 ●——●
 全国 ······



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第5週、H18.1.2～H18.2.5)

H17 [滋賀 ————
 全国 - - - - -]

H18 [滋賀 ●——●
 全国 - - - - -]

